

事業報告書

平成 31 年 4 月 20 日

事業番号：②-4-⑤

事業名：教育セミナーテスト事業

日時：2018年12月12日

場所：ビーンズドームミーティングルーム

内容：ディベート講習会（駅伝大会の負傷者が競技を続けたことに対する賛否を討論）

派遣スタッフ

駒田政史

参加選手

近藤大生、仁木拓人、井藤祐一、岡村一成、トゥロタージェームス、吉野郁哉、白藤成、山中太陽、日比野菜緒、加藤未唯、岡村恭香、加藤智子、森岡きらら

今回の活動目的

駅伝選手がレース中に怪我をしたにもかかわらず、はいざりながら走り切った事件を題材に、マスコミの報道、陸連の対応などを踏まえて、どうするべきだったかを選手たちが考え議論し意見を交わすことで、スポーツについて真剣に考える機会を作る。

所感

マスコミの報道に影響を受けて美談と取れえている選手が多かったが、様々な意見を議論することで、選手やスポーツを大切にすならもっと違った対応が必要だったことに多くの選手が気づくよい機会だった。また、いかにマスコミなどの情報が真実だけではないことを知る機会にもなった。

